



九頭竜川下流

芝原用水

芝原用水は、九頭竜川の中流扇状地に位置する永平寺町(旧松岡町)から日野川と九頭竜川の合流する地点までの九頭竜川左岸の平坦な地域を流れる用水で、福井市街地を流れています。

芝原用水は、越前福井初代藩主結城秀康が国家老本田富正に命じて、福井城下の飲料水と周濠用水(お堀の水)確保を目的に生活用水兼農業用水として開削された用水で、「御上水(おじょうすい)」と呼ばれていました。

完成は1607年で江戸の神田上水(1590年)と並び、日本で最も古い水道と言われています。



当時は福井城下の68の村を潤していましたが、飲料水として利用が優先され、農業用として用いることは従属的に考えられていました。

このため、用水を管理する水奉行という役職が置かれ、川幅、分水口の構造等全てが定められ、勝手に変更することは禁止されるという、厳しい利用制限が行われていました。

芝原用水は外輪・内輪に分かれ、外輪用水は城下町の農地をかんがいし、内輪用水は城下町へと引き込まれており、現在も堀へ水を供給しています。